

12 子どもの心（思春期）

◇ 思春期とは

この時期は、心も身体も大人ではないが全くの子どもでもない状態（思春期初期）から始まり、次いで大人と子どもが入り交じりせめぎ合う状態（思春期中期）、そして最後には心も身体も大人であることを確かなものとしていく状態（思春期後期）の3つの段階に分けることができます。

〔文部科学省「思春期の子どもと向き合うために」から〕



◇ 思春期の特徴を理解することが大切です。

① 自分の変化に戸惑う

二次性徴を反映した身体の急激な変化に強い戸惑いを覚えます。

② 親と距離を置きたがる

自分を客観的に見るができるようになるため、親や教師に対しても同様の視線を向け、なにかと批判的になります。自立心が芽生えて干渉を嫌うようになるわりに、完全に放っておかれると「見捨てられた」と感じてすねるなど、矛盾した言動が目立つのも特徴です。

③ 友達との関係が変化する

親より友人を優先するようになってきます。一方で、客観的視点が身に付いてきたことで「表面上は笑っていても、相手がどう思っているかは分からない」といった事実気付始めます。そのため友人との関係が複雑化し、なにかと悩むことが増えていきます。

④ 異性への関心が高まる

二次性徴を迎えたことで異性への関心が高まります。思春期の精神的動揺をもたらす大きな原因の1つであり、極めて情緒不安定になりやすい状態です。

⑤ 新しい価値観を獲得する

徐々に価値観が変化し、音楽や文学など芸術関連の分野に関心が向きやすくなります。突然「〇〇をやりたい」などと言い出し、親を心配させる子どももいるでしょう。成長のプロセスの一側面として、見守りましょう。

⑥ 本質への関心が高まる

「生きるとは何か」「なぜ勉強をする必要があるのか」といった物事の本質を突く疑問を持つようになり、悩んだり考え込んだりすることが増えてきます。

〔ヘルスケア情報サイト「ヘルスケア大学」Web ページから〕

教えて！Q&A

Q 思春期の子どもにどう接したらよいでしょうか？

A 反抗期を迎えた子どもは、心の中では分かっているけど、素直に聞き入れられない状態にあります。

そんなとき、親が感情的に叱る（怒る）と、かえって逆効果です。

子どもを信じ、温かく成長を見守りましょう。

<よく言われる子育ての四訓>

乳児は、しっかり肌を離すな

幼児は、肌を離せ、手を離すな

少年は、手を離せ、目を離すな

青年は、眼を離せ、心を離すな